

## 研究大学における国際化戦略とその効果分析：広島大学の 取り組みを事例とした因果分析

### Internationalization Strategies in Research Universities and Their Effectiveness: A Causal Analysis of Hiroshima University's Efforts as a Case Study

■日時：2021年3月29日（月）14:00～16:00

■場所：Zoomセミナーの為、全てオンラインで開催いたします。

■講師：西谷 元（広島大学副理事（スーパーグローバル大学創成支援事業）） 村澤 昌崇（広島大学RIHE） 中尾 走・樊 怡舟（広島大学博士課程後期）

■言語：日本語

■概要：

本研究会は、「広島大学スーパーグローバル大学創成支援事業×RIHE連携研究プロジェクトシリーズ」（仮）の第1回目として企画されました。

本シリーズでは、大学の機関レベルで取得できる教学関係データをフルに活用して、国際化等の大学における諸改革の状況や、それら取り組みが学生の成長にもたらす効果について、多角的に検証します。

広島大学のスーパーグローバル大学創成支援事業の効果は、特に国際化戦略において、川田・西谷(2017: <https://bit.ly/3bgkP6d>)により一定の効果が示されており、その分析結果が計量経済学のテキスト(西山他編,2019,『計量経済学』(New Liberal Arts Selection), 有斐閣)にも収録されるほどの研究・実践成果となっています。また、東洋経済新報社においても特集が組まれており(<https://bit.ly/3qfWq50>)、高い関心を集めていると言えるでしょう。

こうした取り組みは、大学IRやEBPMとそこで推奨されている因果推論への関心の高まりと併せて、その意義を改めて評価する必要があるように思います。つまり、これまで研究者や政府を中心に全国に跨がる形で展開されてきた大規模学生調査等による分析と一般化以上に、今日では、個々の大学固有の関心や取り組みの「効果」や「成果」を、如何に厳密に析出して検証するか一言い換えれば、内的妥当性の高い分析のニーズ—この重要性が高まったと言えるのではないのでしょうか。

このような問題提起のもとで、本研究会では、広島大学の各種教学データや、BEVI-Jデータを活用することにより、広島大学の特性や固有の取り組みが、学生の成長にどの程度寄与しているのかについて、近年の因果推論手法の応用を試みながら、迫ってみたいと思います。

■その他

・本セミナーについては、ウェブ会議システム（Zoomミーティングを予定）を使用して実施いたします。開催時刻までにインターネット環境、PC等端末（Webカメラ、マイクが必要）のご用意をお願いいたします。

■その他ご案内・申し込みはセンターHPをご覧ください。

<https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/2021/03/3-29-3/>

広島大学高等教育研究開発センター (RIHE)  
<https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>

